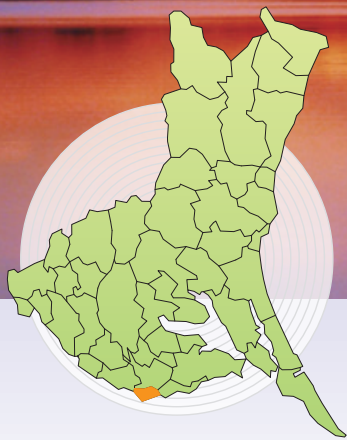


# 第42回 支店長のわがまち紹介



## 茨城県北相馬郡利根町

若者も高齢者も「このまちに長く住みたい」と思えるまちづくり

遠く富士山を望む利根川の美しい夕焼け (写真提供 利根町)

筑波銀行は、茨城県を地盤とする地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が県内44市町村をそれぞれご紹介させていただくコーナーです。

第42回は利根町です。取手支店長の太田貴之が、利根町長遠山務氏、清水総務課長、飯塚企画財政課長、青木企画財政課長補佐、藤波企画財政課シティブロモーション係長にお話を伺いました。

### ●利根町が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか。

#### 【首都圏へのアクセスと利根川の豊かな自然】

利根町は茨城県最南部に位置し、首都圏から40km圏内というアクセスの良さをはじめ、雄大な利根川の流れや町内全域に広がる田園風景など四季折々の変化を見せる美しい自然が自慢です。

春には、利根川栄橋上流の堤防沿いに全長840mに渡って整備された桜づつみが一斉に花をつけ、夏には、親水公園の古代ハスの花が咲き誇ります。また、秋には水田の稲穂が一面黄金色に実り、冬の早朝の利根川は幻想的な風景を見せてくれます。



古代ハスが群生する利根親水公園 (写真提供：利根町)

町内には鎌倉時代にタイムスリップしたような雰囲気を残す鎌倉街道、関東最古の水神様とされる「蛟蛸神社」をはじめとする神社仏閣や文化財などがあり、町の随所に歴史とロマンを感じることができます。

町内を流れる利根川と小貝川の合流地点では、水面に照らされる夕やけや野鳥などが見られ、写真愛好家たちの絶好の撮影スポットとなっています。

#### 【コンパクトなまちで快適な暮らし】

本町の面積は24.9km<sup>2</sup>で、県内では3番目にコンパクトなまちです。都心部のような賑やかさはありませんが、雑踏や騒音、駅前の放置自転車などの問題はなく、静かで安全・安心に暮らすことができます。

また、JR成田線布佐駅、JR常磐線藤代駅や取手駅、圏央道牛久阿見IC、成田空港などの主要交通ネットワークをはじめ、千葉ニュータウン、あみアウトレット、牛久大仏などの大型商業施設や観光スポットも近く、車で20～30分の範囲内にほぼ全ての生活インフラが整備されています。

さらに、不動産の価格が安く「マイホームが購入しやすい」など子育て世代のベッドタウンとして好条件を満たしています。

#### 【手厚い支援で子育て世代を応援】

本町は「とことん子育て応援のまち」をスローガンに掲げ、町民が経済的にも安心して子育てができるような支援策を整備しています。

例えば、出生した年から15歳まで、第2子は50万円、第3子以降は100万円を毎年分割で支給する「子育て応援手当支給事業」をはじめ、所得制限を設けず出生日から中学校3年生までの医療費を無料にしており、更に2017年度からは対象者を高校生相当年齢まで拡大する予定です。

また、通学ヘルメットや小学校内の施設で実施されている「放課後子ども教室」の無料化、新入学生定の児童へのランドセル贈呈、第3子からの給食費の無料化、第2子以降の保育料免除、育児相談や親子あそび教室の開設など手厚い子育て支援を整備しています。

さらに、「新築マイホーム取得助成金」制度を導入し、対象となる世帯が新築、建て替え、建売住宅を購入した場合、最大で50万円を支給しています。

**【防災意識が高いまち】**

10月1日時点で、本町の「交通死亡事故ゼロの日」記録は、連続2,567日を達成し、現在も県内で最長記録を更新中です。

町民は交通安全や防犯・防災意識が高く、地域の繋がりも深いため、子どもや高齢者を地域で見守るコミュニティが形成されています。

また、地域防災活動の要となる消防団は、昨年開催された「茨城県消防ポンプ操法競技大会県南南部地区大会」において優勝に輝きました。



遠山務町長

清水総務課課長



飯塚企画財政課課長

青木企画財政課課長補佐

藤波企画財政課シティプロモーション係長

太田取手支店長

**【健康寿命の向上に向けた取り組み】**

本町の高齢化率は39%を超えていますが、サークル活動などに積極的な高齢者が多いのが特徴です。

また、本町は5年間に及ぶ筑波大学の医療研究に町民とともに参加し、認知症を発症する原因となる1つの物質の発見に協力することができました。

今後も住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただけるよう、高齢者福祉の核となる地域包括支援センターの充実を図るとともに、地域包括ケア体制の構築、認知症予防に効果がある「フリフリグッパ体操」や「シルバーリハビリ体操」の推進など健康寿命の向上に取り組んでまいります。

**●今後の展望についてお聞かせください。**

**【若者の元気をまちの活力に】**

昨年8月に開催された利根町民納涼花火大会では、シティプロモーション事業の一環として「ゆかたde撮影会」を初めて実施しました。予想を超える数の元気な若者たちが浴衣を着て参加し、たくさん輝く笑顔に出会うことができました。



「ゆかたde撮影会」の様子（写真提供：利根町）

本町は、このような「町民の元気」こそ、まちの活性化に必要な「資源」だと捉えています。特に、子どもや若者が気軽に参加できるイベントなどを通し、若者がもっと元気になってもらうため、そして、利根町への愛着心を深めてもらうことが重要です。

そこで本町では、来年度から「利根町元気プロジェクト！」を始動します。まず核となる取り組み

みとして「利根元気塾（仮称）」を開校し、塾長や講師は芸術家やお笑い芸人など外部から招く予定です。異業種の方々と本町がコラボしたワークショップやイベントを開催することで、子どもや若者たちのやる気と元気を発掘したいと考えています。

今後は、これまでの既成概念にとらわれず、行政の枠組みを越えた事業を推進することで、若い世代の方たちがもっと利根町に関心を持ち、「利根町が大好き!」「利根町は楽しい!」そして「いつまでも利根町で暮らしたい!」と感ずることができるようまちづくりに取り組んでまいります。

そして、このような町民の元気な姿を町内外へ広くPRしていくために効果的なシティプロモーション活動も併せて推進してまいります。



利根川の雄大な流れ（写真提供：利根町）

**●筑波銀行に期待することをお聞かせください。**

本町は、総合戦略で掲げた施策として、「空き家バンク制度」や助成金制度などを設け、子育て世代の移住・定住に繋げる住宅取得支援を推進しています。本町の取り組みは全国的に注目を集めており、毎年多くの視察を受け入れています。

また、今年度からスタートしたシティプロモーション事業では、まちの活性化と魅力度・認知度向上に向けた様々な取り組みを展開しています

現在、太田取手支店長には「利根町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の推進協議会委員として参加していただいています。

今後、筑波銀行には本町の施策に合致した住宅ローンなど金融商品の提案や制度の周知活動、イベント後援や行員の参加など、銀行が持つノウハウや人材、ネットワークを活用して、本町がより魅力的に、そしてもっと元気になるための取り組みにご協力いただけることを期待しています。